

わたしとあなた...。それぞれが「愛」と「優」の心をいつも大切に。たがいを認め 支え合うまち・京都を。

人権情報誌

vol. 29
2008.2

あい・ゆー-KYOTO

輝きピープル

中村 ゆりさん

女優

ただ、私らしく、当たり前前に生きること
〜「パッチギ!・LOVE&PEACE」から伝えたかったこと〜

特集 「子どもを共に育む京都市民憲章」は、制定1周年を迎えました!

△京にはばたく▽エイズ等予防啓発ボランティアグループ「紅紐」 木下朋子さん・山口慶子さん
「エイズへの偏見を若者の力でなくしたい!」

中村ゆりさんの
直筆サイン入り色紙を
プレゼント!



ただ、私らしく、当たり前前に生きること ～「パッチギ! LOVE&PEACE」から伝えたかったこと～



中村 ゆりさん [女優]

昨年5月に公開された「パッチギ! LOVE&PEACE」でキョンジャ役を好演された中村ゆりさん。1作目の「パッチギ!」と同様、見る人の心を揺さぶり、様々な想いや厳しい歴史的事実を突きつけた作品でしたが、中村さんは、オーディションの話を聞いた際に、「自分にとって意味のある作品だし、どんな役でもいいから関わりたい」と強く感じたそうです。そこには、自身も在日韓国・朝鮮人であり、きちんと過去のできごとを次世代に伝えていきたいという中村さんの強い思いがありました。

新しい時代のために、きちんと 知ることから始める

映画「パッチギ! LOVE&PEACE」は、2005年1月に公開された映画「パッチギ!」の続編となる作品で、1970年代の在日韓国・朝鮮人(以下、「在日」と表現させていただきます)の人々の苦悩や家族の強い絆が描かれています。

「パッチギ!」は、とても繊細な問題を取り上げ、映画化しようとした井筒監督をはじめとする制作者側の熱い思いが伝わる作品で、私自身が在日ということもあり、とても感銘を受けた作品でした。ですから「パッチギ! LOVE&PEACE」のオーディションの話を聞いた際には、「何が何でもやりたい、どんな役でもいいから関わりたい」と強く思いました。「自分にとって本当に意味のある仕事だ」と感じた気持ち、熱意を井筒監督は受けとめてくださったんだと思います。

この映画を見て、心が救われた人も、あるいはそうでなかった人もいたと思



います。でも、在日の人たちの人生をきちんと描いた作品ですし、そんな作品に出演できたことはとても嬉しいことでした。

実際、1970年代にあのような辛い思いをしてきた今の中高年層の人たちは、自分たちに焦点を当ててくれたという気持ちを持って見てくださり、この映画が励みになり、勇気を持たれた方もたくさんいたと思います。でも、私は、10代や20代の若い人たちにも、この作品を是非見てほしいと思います。

なぜなら、私も、あの時代のことに漠然と興味は持っていない、全てを正確に知っているわけでも、体験したわけでもありません。そんな中で、時代が違うからと片付けるのではなく、どんなことがあったかをきちんと知ることは大切だと思うのです。そして、それを知った上で、たくさんの不幸な過去を、私たち若い世代はそっくりそのまま受け継いでいくのではなく、また新しい考え方をきちんと築いていくべきじゃないか。そういう意味で、世代によって、立場によって、見方は違うと思いますが、色んな世代や立場の人たちが互いに向き合うために、若い人たちにもぜひ見てほしい作品なのです。

堂々と生きれば、何かが変わる

私は大阪で育ち、子どものころは日本の学校に通って、クラスにも在日の友達はたくさんいました。当時から、私はクラスの中でも「在日やねん」と普通に言っていた

んです。これは母の姿勢がそうだったからです。「韓国人であることは決して恥ずかしいことではない」と言って、母はいつも堂々としていました。

でも、周りの友達も、在日であることを隠したり、名前を変えたり、その親たちもそれを守ろうと必死でした。

恋人ができて、自分が在日であることが言えないことで悩んでいた友達もいました。私自身、そんな友達の姿を見ているのは、子どもながらにとっても辛いことでした。私が国籍を受け継いだことは、不幸なことなのかと。

正直、私だって恥ずかしいなと思った時期もありましたよ。空港でパスポートを人に見られないように隠したりしたこともありました。今はもちろん、そんなことはありません。

ですから、在日であることを公表したのもそんな気持ちからで、私自身が堂々と生きれば、何かが変わっていくかもしれないと思ったからです。そして、変えていけるのも私たちの世代だと思うのです。私は、私より若い子たちには国籍のことで辛い思いはしてほしくないと思いますし、そのためにも歴史をきちんと知ることが大切だと思っています。

とはいえ、実は公表については、割とあっけらかんとしていました。「聞かれたから言った」、という感じでした。むしろ、周囲のほうにそれを繊細に受けとめてくれました。でも、私には当たり前のことでしたから、何の気負いもなかったんですよ。

愛と平和と家族愛！ 当たり前だけど大切なこと

そんな子どものころからの思いもあり、この作品で、キョンジャ役を演じる際には、「在日のことを少しでも多くの方に知ってほしい」という思いがとても強かったんです。でも、役を演じていくうちに、これは在日のことだけに焦点を当てている作品ではないと感じてきたのです。

キョンジャが最後に「なんでうちら朝鮮人なん？ 朝鮮人になんて生まれたなかった！」と叫ぶシーンがあります。これは正に、在日の人たちの心の叫びなのですが、あれは世界中の差別や偏見で苦しんでいる人たちの叫びでもあるでしょ。母子家庭に生まれた人、黒人に生まれた人、発展途上国に生まれた人、色んな立場で、「なぜ？」と苦しみ悩む人たちに対して、「パッチギ！ LOVE & PEACE」は、愛と平和を唱えているんだと納得しました。



あの作品ではもう一つ、家族の絆も描かれています。キョンジャは自分の生まれを嘆き悲しみますが、でも一生懸命に誇りを持って生きていこうとすると、そこには家族の支えがあります。人生の芯に家族愛があるから、生き方にブレがない。家族を守り、強く生きていくところにとっても共感しました。

私は母と暮らしていますが、あの作品同様、家族の存在は大きいですね。「家族は温かい」だけじゃ済まないこともあり、色んなこともあります。でも、やっぱり家族が幸せでないと自分の幸せもないと思っています。

今は、まだ、25歳で、人に感動を伝えられるようになるまでには、時間がかかると思います。でも、役の大小に関わらず、これからも人の心を動かすような、だれかを勇気付けられるような作品に少しでも携わっていける仕事ができたと思っています。

今回、京都での撮影はなくて残念でしたが、京都が舞台だった「パッチギ！」の魂はきっちり受け継ぎ、伝えられたと思っています。また、映画の仕事で京都に行くことも多いと思いますし、今年はテレビドラマの出演予定もあるので、ぜひ応援してくださいね！

PROFILE

な か む ら

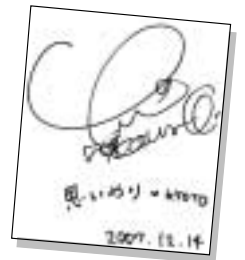
中村 ゆりさん [女優]

1982年生まれ。大阪府出身。アーティストとして活動中、芝居・演技に興味を持ち始め、本格的に女優としての活動を行う。昨年の映画「パッチギ！ LOVE & PEACE」でキョンジャ役を演じ注目される。これまでの出演作品には、映画「偶然にも最悪な少年」、「さくらん」、「天国からのラブレター」、テレビドラマ「トキオ」などがある。

プレゼント

中村ゆりさんの直筆サイン入り色紙をプレゼント！

中村ゆりさんの直筆サインと読者へのメッセージが書かれた色紙を抽選で2名の方にプレゼントします。ハガキに郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号と「あい・ゆーKYOTO Vol.29号」へのご意見感想を書いて2月29日(当日消印有効)までに下記へお送りください。なお抽選の結果は発送をもって代えさせていただきます。



〒604-8571(住所記入不要) 京都市人権文化推進課
「あい・ゆーKYOTO vol.29 色紙プレゼント」係



特集

「子どもを共に育む京都市民憲章」は、制定1周年を迎えました!

「子どもを共に育む京都市民憲章」とは

京都のまちには、地蔵盆や各地域の祭り、全国に先駆けた番組小学校など、子どもたちを大切に育んできた文化と歴史があります。

しかし、現代社会は、物の豊かさや便利さが優先され、家庭や地域での人と人とのつながりが希薄化するなど、子どもが健やかに育ちにくい状況にあります。

そこで、京都市では、人づくり21世紀委員会や京都子どもネットワーク連絡会議などの団体や多くの市民が参画して、平成19年2月、子どもを健やかに育むための市民共通の行動規範となる「子どもを共に育む京都市民憲章」を制定しました。



制定記念の集いには2,800人の市民が参加

今日から実践、身近なことから始めてみよう。



子どもを共に育む京都市民憲章

わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを大切にして、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、京都市民の使命です。

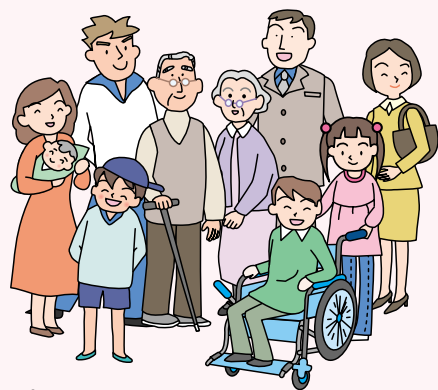
大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切にして、子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが求められます。

そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します



平成19年2月5日制定

3月13日憲章推進の市会決議

実践できることを宣言してみよう ～「わたし憲章」に1,300件の応募～

人づくり21世紀委員会が、「子どもを共に育む京都市民憲章」の行動理念を踏まえ、一人ひとりが身近なところからこの憲章を実践しようとの思いの下、募集した「わたし憲章」。昨年7月から募集を開始し、全国から1,300件を超える応募がありました。

現在、子どもを対象とした各種イベント会場などで設置した「わたし憲章」コーナーが参加者の宣言でにぎわうなど、市民の皆さんの間でも主体的な行動の機運が広がっています。

皆さんも、簡単に具体的な行動を宣言して、今日から憲章を実践してみませんか。

● 家庭・地域・団体・企業などそれぞれの立場から様々な宣言が寄せられました！

- ・私は、子どもと過ごしている時間は携帯電話でメールをしません。
- ・私は、地域の子どもの顔と名前をしっかりと覚えて、名前を呼んであいさつをします。
- ・私たちの団体は、街中で困っていそうな子どもに、声を掛ける運動をします。
- ・私の会社では、毎週火曜日8時15分から門掃きを社員全員で行います。

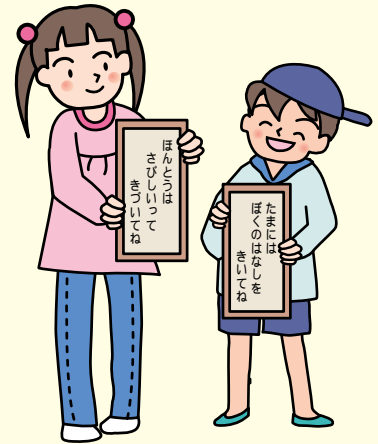
● 「わたし憲章」をヒントに、こんな取組が始まっています！



「わたし憲章」をイラスト入りのパネルにして紹介。子どもから大人まで、みんなで宣言したよ！



「わたし憲章」を一本の木に見立て、一枚一枚の葉に宣言を書き入れた「わたし憲章の木」。

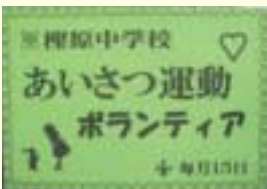


人と人のつながりは、心温まるあいさつから

「おはよう」、「こんにちは」、「いってらっしゃい」、「おかえり」...。「あいさつ」は、人と人をつなぎ、温かい気持ちにしてくれます。憲章の実践を、気持ちの良い「あいさつ」から始めてみるのもいかがでしょうか。

● 「あいさつ」の実践が広がっています！

榎原中学校校下地域生徒指導連絡協議会では、地域の方が「あいさつ運動ボランティアカード」を身に付けて、あいさつを行い、あいさつから生徒との交流が生まれています。



あいさつ運動
ボランティアカード



「あいさつ運動」の様子



また、下京区「人づくり」ネットワーク実行委員会では「あいさつがしやすい環境づくり」をテーマに、「あいさつ」のメッセージが飛び出すおもちゃや玄関前に掲げるプレートの作成・掲出などの取組を行っています。

「子どもを共に育む京都市民憲章」に関するお問合せは下記まで

京都市保健福祉局 子育て支援部 児童家庭課

電話251-2380

京都市教育委員会 生涯学習部 家庭地域教育支援担当

電話222-3590



エイズへの偏見を若者の力でなくしたい!

～エイズ等予防啓発ボランティアグループ「紅紐」～

1期生 ^{きのした} 木下 ^{ともこ} 朋子さん 2期生 ^{やまぐち} 山口 ^{けいこ} 慶子さん
(京都府立医科大学) (京都精華大学)

若者たちにエイズへの理解を深めてもらおうと、京都府が、2006年に募集し始めた、エイズ等予防啓発ボランティア。その養成研修修了生たちによって、2007年10月に立ち上げられた、エイズ等予防啓発ボランティアグループ「紅紐」が、京都学生祭典で、初めての本格的な活動を行いました。「私たち若者の力で、エイズへの偏見をなくしていきたい」と語る「紅紐」のメンバー、木下朋子さんと山口慶子さんにその思いを伺いました。

エイズについて学ぶ機会があったのですが、大学へ入学後、友人たちと話している際に、エイズについての認識が人によってあまりに差があることに驚いたといいます。

そんなときにこの養成研修のことを知り、エイズに対する誤解や偏見を減らすきっかけづくりにかかわることができればとの思いから、研修に参加されました。



木下朋子さん

同世代だからこそできるエイズ啓発を



山口慶子さん

厚生労働省の平成18年エイズ発生動向調査によると、平成18年の国内におけるHIV感染者の報告件数は952件、エイズ患者の報告件数は406件となっており、HIV感染者及びエイズ患者の報告件数は、年々、増加傾向にあります。京都府においても、これらの数値は、年々、増加傾向にあります。

こうした現状を踏まえ、京都府では同世代の仲間から仲間へ啓発をしてもらおうと、2006年から大学生等若者を中心にエイズ等予防啓発ボランティアを募集。1期生(2006年10月養成)38人、2期生(2007年8月養成)35人が養成研修を受講しました。その修了生たちによって、「紅紐」のメンバーは構成されています。

「紅紐」という名は、HIV感染者とエイズ患者への理解と支援の意志を示すシンボルである「レッドリボン」を和訳し、京都風にアレンジしたことに由来しています。

1期生の木下さんが養成研修に参加したのは、地域予防医学の道に進みたいとの思いからでした。「地域の感染症対策に取り組むとき、エイズボランティアとしての活動を生かした組織運営をしたい」と将来を見据えた言葉にも力がこもります。

一方、2期生の山口さんは高校生のときに保健体育で、

大事なことは、「重い」

「紅紐」がこれまでにいった一番大きな活動は、昨年10月7日に平安神宮と岡崎公園一帯で行われた京都学生祭典での啓発活動です。

メンバー同士でどうすれば自分たちと同じ世代の若者にエイズについて関心を持ってもらえるかを話し合い、その結果、だれもが経験する「恋愛」をテーマにしたパネルを展示することにしました。「好きな人に夢中になれば、セックスも当然のこととなっていく。そのとき、あなたはリスクを考えるだろうか...」といった自然な流れで、エイズの話に入っていけるような構成が考えられています。

「いきなり性感染症ではテーマが重すぎる。エイズという言葉への拒絶反応もある。といった意見を出し合い、最後に『恋愛』に行き着きました」と木下さん。

祭典当日は、たくさんの若者だけでなく、小さな子どもを持つお母さん世代も熱心にパネルを見てくれ、世代を超えた関心を集められたという手応えがありました。

その反面、パネルに興味を示さない人もたくさんおり、エイズという言葉への拒絶反応も感じた2人は今後の課題を挙げます。

また、個人での活動として、山口さんは、府立高校でのエイズ予防授業にスタッフとして参加しています。「大事なことは(内容が)重い。でも重いことは大事なことを伝えていけたら。自分の体を守るためにも自分から友だちへ、彼氏(彼女)へときちんと大事なことを伝えていける人になって欲しいと思っています」という言葉に、木下さんも大きくうなずいていました。

今後の「紅紐」の活動と、若者たちの前向きな力に期待が寄せられます。



様々なコンドームの展示や啓発冊子を並べられた会場



パネルに興味を示してくれたカップルに話しかけるメンバー

【JR京都駅前広場での啓発活動】

エイズ等予防啓発ボランティアグループ「紅紐」に関するお問合せ先
京都府保健福祉部健康・医療総括室
健康対策室感染症担当
京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町
電話 414-4723 FAX 431-3970
Email kentai@pref.kyoto.lg.jp



インターネット 利用者のマナー

だれもが自由で、尊厳と権利が
平等にあることを「人権」といいます。
みなさん、四コマまんがを通して
人権について考えてみませんか？

文部科学省実施の平成18年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によると、国・公・私立の小・中・高等学校及び特殊教育諸学校におけるいじめの認知件数は、約125,000件に上ることが分かりました。

その中には、インターネットの掲示板に悪口を書き込むなど、インターネットを利用したいじめが約4,900件あることが、今回の調査により初めて判明しました。

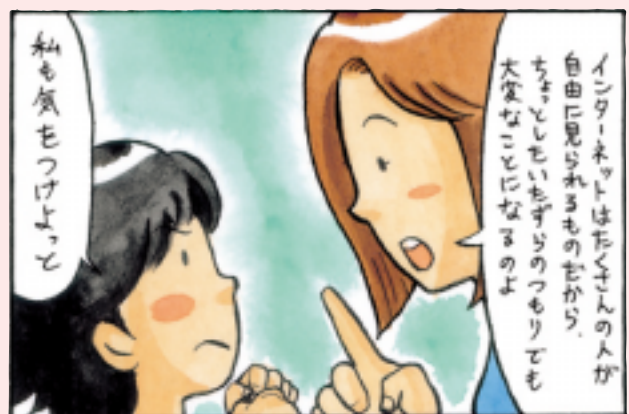
そして、現在、このインターネットを利用したいじめが、大きな社会問題となっています。

インターネット上の掲示板などは、誰もが自由に閲覧できるものです。そのため、掲示板などに他人の名前や住所などを書き込むと、その内容が一瞬にしてたくさんの人に知られてしまい、それがたとえ軽い気持ちで行ったことであっても、取り返しのつかない大変なことになってしまいます。

インターネットは、知りたい情報をすぐに手に入れたり、世界中の人と気軽にコミュニケーションができたり、だれでも簡単に情報が発信できたりなど、とても便利なものです。

しかし、その便利なインターネットも使い方を誤ると、他人を傷つける危険な道具へと変わります。

みなさんもインターネットを使用する際には、ルールやマナーを守り、正しくインターネットを使いましょう。



イラスト：坂上加奈子
京都精華大学 マンガ文化研究所

人権“ほっと”写真を募集します!

人権の大切さが感じられる心温まる写真を募集します。



2月末
締切り

平成19年度(上半期)
<ほっと賞>
「気分爽快 親子の
ふれあいタイム」
秋吉祐樹さん

詳しくはホームページでご確認ください。

人権文化推進課ホームページ

<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/page/0000024882.html>

【お問合せ】京都市文化市民局人権文化推進課 ☎222-3381

ツラッティ千本 特別講演会



ツラッティ千本では、平成19年3月に展示内容を新たにし、千本の歴史や地域の取組を分かりやすくご覧いただけるようになり、大変好評を得ています。

今回、展示をより一層理解していただけるように、展示内容に即した講演会を開催します。お二人の先生を講師にお招きし、それぞれのご専門から千本の歴史とまちづくりの歩みについてご講演いただきます。

日時 3月22日(土) 13:30~16:20(13:00開場)

会場 楽只コミュニティセンター 集会室

テーマ 過去から未来への望遠鏡

- 千本の歴史とまちづくりの歩み -

講師 秋定嘉和氏(世界人権問題研究センター理事・研究部長、池坊短期大学名誉教授)

上田正昭氏(世界人権問題研究センター理事長、京都大学名誉教授)

参加費 無料(事前申込不要)

定員 150名

その他 当日は、楽只コミュニティセンター及びツラッティ千本は閉館日ですが、臨時に開館致します。講演会を、より楽しんでいただくためにも、是非とも、講演会の前にツラッティ千本へ見学にお越しください。

【お問合せ】楽只コミュニティセンター ☎492-7320

参加無料

京都市男女共同参画講座 ウィングスセミナー 山田昌弘講演会



山田昌弘氏

「パラサイトシングル」、「格差社会」など、現代の家族関係と社会に関する新しい言葉を次々に生み出す社会学者山田昌弘氏に、今どきの結婚事情、家族と社会に起きている変化について語っていただきます。

日時 2月23日(土) 14:00~16:00

会場 ウィングス京都(京都市男女共同参画センター) イベントホール

講師 山田昌弘氏

(東京学芸大学教育学部教授・社会学者)

テーマ 「うちの子はなぜ結婚しないの?」

参加費 500円(前売券), 800円(当日券)

定員 240名

その他 保育あり(有料1人1回800円,申し込みは2月9日までに)

【お問合せ】ウィングス京都(京都市男女共同参画センター)内
(財)京都市女性協会事業企画課
☎212-8013

ボランティア・市民活動フェスタ

市民活動総合センターと福祉ボランティアセンターが合同で、両センターで活動されている市民の方々の様々な活動を紹介します。

日時 3月16日(日) 10:00~16:00

会場 みやこめっせ

参加費 無料(事前申込不要)

参加無料

【お問合せ】市民活動総合センター ☎354-8721

第13回 ふしみ人権のつどい

日時 2月9日(土) 13:30~16:30

会場 パルスプラザ 稲盛ホール

内容 第1部

・人権の集いからのメッセージ

・一年間の活動報告

第2部 <記念公演>

テーマ 通天閣の歌姫 夢追い人生 ^{ライブ} 雷舞コンサート



叶れい子さん

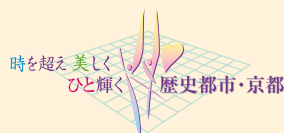
出演 叶れい子さん

参加費 無料(事前申込不要)

【お問合せ】改進コミュニティセンター ☎611-3266

本誌は年4回(5月8月,11月2月)発行します。区役所・支所のまちづくり推進課 市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は、返信用切手(120円分)を同封のうえ、京都市人権文化推進課までお申し込みください。

同じです あなたとわたしの 大切さ



発行日 平成20年2月1日

発行 京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上
上本能寺前町488番地

☎075(222)3381

<http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-2-3-0-0.html>

京都市印刷物第193156号